

キャリアパスポートの活用について

棚倉町教育委員会

以下の視点と手立てで、キャリアパスポートを活用し、幼小中高の連携を図りたい。

1 幼から小へ

- 「就学支援シート」を活用し、幼稚園から小学校への保護者情報を確実に送りたい。「就学支援シート」にキャリアパスポートの機能を持たせることができないか。その際、教師のコメントに「ほめポイント」の記述を追加し、共有できればよい。
- 小学校1年担任は、それを読んだ上で、自己の学年・学級の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を設定し、指導に生かし、保護者へ伝えたい
- 育てたい資質・能力は、子どもたちにも分かりやすく伝え、幼稚園でのほめポイントを有効に活用しながら、学校生活に適應させたい。

2 小学校における学年の引き継ぎについて

- 2～6年生については、引き継いだキャリアパスポートに担任が目を通し、自己の学年・学級の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力を設定するのに活用したり、学級活動の授業で活用したりして、ガイダンスやカウンセリングに役立てる。

3 小学校から中学校への引き継ぎについて

- 交流学习とチャレキッズ（類似の取組も含めて）の振り返りは、キャリアパスポートに綴じ込むようにして、中学校の教師が目を通せるようにする。それらは、卒業年度末の引き継ぎの際に、確実に中学校に届けるようにする。
- 卒業に当たっては、「小学校で学んだこと」「中学校での目標」「進学にあたっての悩みや不安、質問」などを表現させた「自分発見シート」を作成し、中学校へ引き継ぐこととする。形式は、教育委員会から提案する。
- 中学校においては、上記の情報が送られてくることを前提にして、教育課程を編成する。特に、「中学校に入学すれば、その指導体制の中で何とかする」ではなく、「小学校での学びを発展させ、小学校でのよさを大切にしながら、中学生活(部活、学習と入試、生活と生徒指導)に適應させていく」ことを教師全員で確認したい。
- 中学校での教育課程は、新学習指導要領の趣旨に基づき、小学校でのキャリア教育の成果（資質・能力の育成と職業体験）を、中学校での職場体験学習へと発展させ、進路決定につなげていくように編成する。
- さらに、修明高等学校とのつながりを重視し、高校生の発表を聞く機会を極力設けるようにする。（できれば、小学校高学年にもその機会を与えたい。）

4 中学校から高等学校への引き継ぎについて

- キャリアパスポートを進学先の高等学校へ送付し、一読し必要な情報を把握した上で、生徒に返却するよう依頼する。（学校でできなければ、教育委員会で依頼する。）